

科目 臨床生化学実習 (Laboratory of Clinical Biochemistry)

担当教員 横田 浩充

【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

臨床生化学検査が病院でどのようにして実施されているか、また、それにたずさわる臨床検査技師がどのようにして生化学的検査を行っているかを実地で学ぶことを目的とする。

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ
- (3) 他者と協力して課題を解決する力をもつ

<具体的な項目>

専門分野における十分な基礎知識・基本技能 (1)
 関連する分野における概括的な基礎知識・基本技能 (1)
 根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く能力 (1)
 常に問題を科学的に分析・解釈しようとし、そのための科学的探究を試みる態度 (1)
 問題解決のために積極的に他者と協働する態度 (3)

【2】 授業計画

無機物質の分析
 糖質の分析
 タンパク質および非タンパク性窒素成分の分析
 酵素の分析
 ホルモン分析
 脂質の分析
 臨床生化学検査の精度管理を学ぶ
 病態と臨床生化学検査値の関連を学ぶ
 臨床生化学検査室の業務について学ぶ。

【3】 到達目標

1. 病院検査部の臨床生化学検査の運用とそれらの検査結果について説明することができる。
2. 臨床生化学検査室の業務について説明することができる。

【4】 授業概要

病院で臨地実習を通じて臨床生化学検査を学ぶ。東邦大学医療センター大森病院、大橋病院、佐倉病院等の臨床検査部長、輸血部長および技師長・主任が担当する。

【5】 準備学習（予習・復習）および必要時間

実習前に必ず臨床生化学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査機器総論の授業で使用した資料・教科書を毎回1時間予習しておくこと。また臨地実習で配布される資料および学んだ項目を教科書にて1時間復習すること。

【6】 教科書・参考書・参考資料

「臨床検査法提要」(金原出版)
 「最新臨床検査学講座 臨床化学検査学」(医歯薬出版)

【7】 評価方法およびフィードバック

臨地実習先での評価シート(70%)および臨床検査課程で課する報告書(30%)により評価する。レポートはコメント付し返却するので確認・復習すること。

【8】 オフィスアワー

臨地実習先にて、随時担当者が対応する。
 横田：月、火、木の15時以降

【9】 関連科目

[予め学んでおくとよい科目]
 臨床生化学Ⅰ 臨床生化学Ⅱ
 [この科目に続く内容の科目]
 臨床特別講義

【10】 その他

臨地実習先での実習のため、身なりを清潔に指導者に対して感謝の気持ちを持ち、言葉づかいも丁寧なことに。社会の一員としての自覚を持って実地に学んでいただきたい。